

オーストラリア学会報

Australian Studies Association of Japan

第 44 号

2005 年 5 月 9 日

<http://pweb.sophia.ac.jp/~s-yuga/asaj2/>

1. 第 16 回 (2005 年度総会) 全国研究大会のご案内

テーマ: Unity Divided [分割された統一]

開催日: 平成 17 年 6 月 11 日 (土) 12 日 (日)

場 所: 同志社大学今出川校地 寒梅館 (京都市上京区烏丸通上立売下ル御所八幡町 103)

電話: 075-251-3110 (代) / 当日: 090-1159-5068

担当: 有満保江 (同志社大学言語文化教育研究センター)

研究大会・総会会場: 寒梅館大会議室・地 A

市営地下鉄烏丸線 今出川駅より徒歩 1 分 (2 番出口より北に 60m)

京阪線 出町柳駅より徒歩 15 分

交通アクセスについては、別添の案内をご参照ください。

URL: <http://www.doshisha.ac.jp/daigaku/koutsuu/index.html>

6 月 11 日 (土) 第 1 日目

10:00 - 12:00 理事会 (寒梅館 6 階会議室 6 A)

13:00 - 13:30 受け付け

13:30 - 13:40 開会 司会 橋本雄太郎 (杏林大学)

13:30 - 13:40 開会挨拶 関根政美 (慶應義塾大学) オーストラリア学会代表理事

13:40 - 15:10 特別講演 (英語) 司会 鈴木雄雅 (上智大学)

13:40 - 14:40 特別講演 "Contemporary Australian Art: A Provocative Analysis"

Christine J. Nicholls (東京大学客員教授)

14:40 - 15:10 質議応答

15:10 - 15:30 休憩

15:30 - 17:30 シンポジウム 「日豪関係の 30 年 日豪友好条約以後の日豪関係」

司会 南出眞助 (追手門学院大学オーストラリア研究所所長)

15:30 - 16:15 基調講演 「オーストラリアから見た日豪関係の 30 年」

Bruce Miller (オーストラリア公使参事官)

16:15 - 17:30 討論・質議応答

「経済・貿易」

森 健 (獨協大学)

「政治・外交」

竹田いさみ (獨協大学)

「社会・文化」

鎌田真弓 (名古屋商科大学)

18:00 - 20:00 懇親会 (寒梅館 7 階 SECOND HOUSE will)

Poetry Reading [詩の朗読]

6月12日(日) 第2日目

8:45 - 9:15 受け付け

9:15 - 10:45 一般個別研究報告

【第1会場】(寒梅館大会議室・地A) 司会 関根政美(慶應義塾大学)
「日豪牛肉自由化交渉の政治過程」 吉田忠洋(早稲田大学大学院 博士後期課程)
「東アジア地域主義時代における日豪パートナーシップ」 寺田 貴(シンガポール国立大学)

【第2会場】(寒梅館6階大会議室) 司会 藤川隆男(大阪大学)
「ネオ・リベラリズムの時代の多文化主義 対抗原理の構築に向けて」
塩原良和(東京外国語大学)
「多文化主義/多文化教育の行方 ビクトリア州を中心にして」
馬淵 仁(大阪女学院大学)
「アボリジニ社会のジェンダー研究とオーストラリア」 窪田幸子(広島大学)

10:45 - 11:00 休憩

11:00 - 12:00 一般個別研究報告

【第1会場】(寒梅館大会議室・地A) 司会 橋本雄太郎(杏林大学)
「2004年豪州連邦総選挙の結果分析」 浅川晃広(名古屋大学)
「オーストラリアの裁判制度 家事事件を中心に」 小川富之(愛知学院大学)

【第2会場】(寒梅館6階大会議室) 司会 安藤 充(愛知学院大学)
「イースタン・アーケードとの別離
A・L・マカン『黄昏の白い裸身』におけるモダニティ」
下楠昌哉(静岡文化芸術大学)
「創られる戦争の記憶 オーストラリアのナショナリズムと世界大戦」
津田博司(大阪大学大学院 博士後期課程)

12:00 - 13:00 昼食 / 理事会(寒梅館6階大会議室)

13:00 - 13:45 詩の朗読 司会 有満保江(同志社大学)
『イメージの古都』by John Mateer(詩人) 訳・紹介: 湊 圭史(立命館大学)

13:45 - 14:00 休憩

14:00 - 16:00 シンポジウム “Australian Culture: Surviving the 21st Century”
司会 Roger Pulvers(東京工業大学)
「オーストラリア映画・演劇」 佐和田敬司(早稲田大学)
「オーストラリアの小説について」 Leith Morton(東京工業大学)
「オーストラリア文学とアジア」 加藤めぐみ(明星大学)

16:00 - 16:30 総会

16:30 - 16:40 閉会挨拶 関根政美(慶應義塾大学) オーストラリア学会代表理事

2005 年度オーストラリア学会全国研究大会
報告者および報告要旨

吉田忠洋（早稲田大学大学院アジア太平洋研究科博士後期課程）

「日豪牛肉自由化交渉の政治過程」

1988年の自由化決定に至る日本の牛肉交渉は、一般にはアメリカとオーストラリアの強硬な自由化要求の成果であったと理解されている。確かにそのような指摘自体は間違いではなからう。しかしながら、ある一面においては、その交渉の過程は、アメリカとオーストラリアによる日本市場をめぐる熾烈な競争の一環でもあった。事実、オーストラリア政府は当時、日本の牛肉輸入に関する日米合意に抗議していただけでなく、豪州産牛肉が米国産に徐々に取って代わられていく日本市場の状況についても懸念を表明していた。本報告では、特にオーストラリアを事例として取り上げ、当時の豪州国内の政策形成過程について考察を行う。換言すれば、オーストラリア政府が、日本の牛肉市場自由化をどのように捉え、またその結果、どのような政策を採用してきたのかについて分析を加える。

寺田 貴（シンガポール国立大学）

「東アジア地域主義時代における日豪パートナーシップ」

日豪パートナーシップは、PECC、APEC の設立において重要な役割を果たすなど、「アジア太平洋」地域主義の時代、経済外交の分野を中心に、うまく機能してきた。しかしハワード政権になり、停滞する対東南アジア関係や APEC の機能低下と相まって、97年に ASEAN + 3 が発足し、豪州を排除した「東アジア」地域主義の時代が到来した。ここでは、両地域主義の特徴を対比させ、小泉首相の東アジア共同体提唱や日豪 FTA 構想、豪州軍のサマワ派遣等の意味合いを論じながら、新しい枠組みでの日豪パートナーシップの分析を試みたい。

塩原良和（東京外国語大学 非常勤講師）

「ネオ・リベラリズムの時代の多文化主義 - 対抗原理の構築に向けて」

本報告では、1980年代以降のオーストラリアで顕在化したネオ・リベラリズムの潮流が多文化主義にもたらした影響を考察し、連邦政府の多文化主義理念がネオ・リベラリズムを補完する言説へと変質していった過程を分析する。さらに、こうした変質を従来の多文化主義理論がじゅうぶんに把握・批判できなかった原因を明らかにし、ネオ・リベラリズムへの「対抗原理」として多文化主義を再構築する可能性を模索する。

馬淵 仁（大阪女学院大学）

「多文化主義 / 多文化教育の行方 ビクトリア州を中心にして」

日本国内では多文化教育の先進モデルと見なされてきた、オーストラリアの多文化教育を再考する。理念的には、リベラル多文化主義や本質主義的なアプローチの限界が指摘され、政策的には、経済的効率、政治的統合、文化的理念の構築という重層的な捉え方を要請される状況が見られる。そのような文脈の中、多文化教育、とくに教員養成課程におけるその現状は、どう展開されようとしているのか。いくつかのケースから考察を試みる。

窪田幸子（広島大学）

「アボリジニ社会のジェンダー研究とオーストラリア」

アボリジニ社会の人類学的研究においてジェンダー視点が興隆を見せるのは 1970 年代からのことである。しかし現在、この立場からの研究は数も減り、興味が失われたかに見える。こうした研究動向の変化を分析することから、人類学、そして、アボリジニ研究の特徴を明らかにし、オーストラリア社会とアボリジニの関係の理解の一助としたい。

浅川晃広（名古屋大学）

「2004 年豪州連邦総選挙の結果分析」

2004 年 10 月 9 日に実施された、豪州連邦議会選挙は、政権交代の可能性も予想されながら、与党が 5 議席を増加し、全 150 議席中、87 議席を占める勝利となった。今次選挙戦においては、政権の帰趨を決する、いわゆる「マージナル選挙区」と呼ばれる激戦選挙区の動向が注目され、一部では、現職が敗れる事態も発生した。本発表では、この「マージナル選挙区」における投票結果を中心に、2004 年連邦総選挙について分析する。

小川富之（愛知学院大学）

「オーストラリアの裁判制度 - 家事事件を中心に」

オーストラリアは、連邦国家であり、連邦政府の立法権限と州政府の立法権限が存在し、連邦裁判所の管轄権と州裁判所の管轄権とが並存する。この連邦および州の裁判管轄について概説した上で、家族問題についての裁判所の審理について検討する。周知のとおり、現在多くの日本人がオーストラリアを訪れており、オーストラリア人と日本人との間の国際結婚の事例も増加している。これに伴って、離婚事件も増加しており、実務的にも、オーストラリアにおける家事事件の審理についての正確な知識が求められている。また、オーストラリアにおいては、1975 年に連邦家族法が制定され、徹底した破綻主義離婚法が確立された。これを受けて、オーストラリア家庭裁判所では、審理の中心的関心は、離婚自体ではなく、離婚に伴う子どもの問題に移っており、子どもの最善の利益の実現に関して大きな成果を挙げていると報告されている。この点について検討することは、日本における家庭裁判所のあり方にも大いに参考になると思われる。

下楠昌哉（静岡文化芸術大学）

「イースタン・アーケードとの別離 - A・L・マカン『黄昏の白い裸身』におけるモダニティ」

『黄昏の白い裸身 (*The White Body of Evening*)』(2002) は、英文学者 A・L・マカン博士の処女長編小説である。作者のこの作品における狙いのひとつは、メルボルンという都市の神話化である。本発表では、変貌を続けるモダンな都市空間の中で過去をつなぎとめつつ存在しているアーケードに注目し、19 世紀末から 20 世紀初めのメルボルンを舞台としたこの作品に、博士のモダニティに対する考え方がどのように反映しているかを検証する。

津田博司（大阪大学大学院文学研究科・博士後期課程）

「創られる戦争の記憶 オーストラリアのナショナリズムと世界大戦」

オーストラリア史上、第 1 次世界大戦への参戦、とりわけガリポリ上陸作戦に代表されるアンザックの記憶は、国民国家としてのアイデンティティをもたらした経験として、しばしば言及される。本報告では、第 1 次世界大戦の戦史編纂を行った C.E.W.ピーン (1879-1968) の著作、退役軍人会 (RSL) による追悼活動を主な対象として、国民統合の物語としてのアンザック神話が形成される過程について検証してみたい。

講師 / パネリスト紹介

【特別講演】

講師 クリスティーン・ニコルズ(Christine J. Nicholls) オーストラリアの作家、キュレーター、アボリジナル言語学者。社会学博士。Flinders 大学、Adelaide 大学などを経て現在、東京大学客員教授。専門分野：オーストラリア美術史、オーストラリア学。北部特別地域における二言語教育（アボリジナル言語と英語）プログラムに従事。アボリジナル美術・言語についての記事や論文多数。「オーストラリア児童文学賞」などを受賞多数。

【シンポジウム 1】

基調講演講師 ブルース・ミラー (Bruce Miller) オーストラリア公使参事官。1961 年シドニー生まれ。シドニー大学で日本語と法律を学ぶ。1986 年、外務貿易省に入省、北東アジア部長を務め、日本、韓国、北朝鮮との二国間関係を担当。また外務貿易省ならびに首相・内閣省にて、国家安全保障を担当。外務貿易省内では法関連問題も幅広く担当。東京、テヘランに駐在経験がある。2004 年 8 月より現職。

司会 南出眞助 追手門学院大学教授 / 同大学オーストラリア研究所長。京都大学大学院修士課程修了(人文地理学)。専門分野：日本、アジア、オーストラリアを中心とした港湾都市の歴史地理学的研究。主要業績：“Improvements to the Port of Melbourne, 1850-90’s” (1994)、『オーストラリアの地域開発における内陸・沿岸関係の研究』(編著, 1998) など。

パネリスト 森 健 獨協大学教授。早稲田大学、ワシントン州立大学大学院修了(MA in Econ.)。アジア経済研究所などを経て現職。専門分野：アジア・太平洋経済。主要業績：『オーストラリア入門』(編著, 1998)、「(オーストラリアの)労使関係をめぐる問題点」『海外事情』(1999.9)、「オーストラリアの長期好況と長期政権」『世界経済評論』(2005.2) など。

パネリスト 竹田いさみ 獨協大学教授。上智大学大学院国際関係論専攻修了。シドニー大学およびロンドン大学留学。PhD(国際政治史)取得。専門分野：国際政治、オーストラリア・東南アジア広域研究。国境を越える問題を研究テーマにしている。主要業績：『移民・難民・援助の政治学 - オーストラリアと国際社会』(1991)(アジア太平洋賞特別賞受賞)、『物語オーストラリアの歴史』(2000)、『オーストラリア入門』(編著, 1998) など。

パネリスト 鎌田真弓 名古屋商科大学教授。オーストラリア国立大学大学院博士課程修了(PhD)。専門分野：オーストラリアの政治・社会。主要業績：‘Australia-Japan Business Cooperation Committees, Institutionalisation of Communication Channels,’ *Pacific Economic Papers* 219 (1993)、『多文化国家の先住民-オーストラリア・アボリジニの現在』(共著, 2002)、『現代東アジアと日本 4 海域アジア』(共著, 2004) など。

【Poetry Reading】

ジョン・マティア (John Mateer) 詩人、作家、美術評論家。1971 年南アフリカ生まれ。子供時代をカナダで過ごし、1989 年家族とともに西オーストラリアに移住、現在はメルボルンに在住。多数の詩集や美術評論執筆、またインドネシア滞在日記(ノン・フィクション) *Semar's Cave: An Indonesian Journal* (2004) を出版。2001 年ヴィクトリア州知事賞(詩部門)をはじめ受賞多数。

【シンポジウム 2】

司会 ロジャー・バルバース (Roger Pulvers) 小説家、劇作家、舞台監督、翻訳家。アメリカ生まれのオーストラリア人。1967 年に来日以後、著書は英語、日本語によるものを合わせて 25 冊を超える。最新の戯曲『河原町物語』は日本語で書かれた作品で、今年の 11 月に東京、両国の「シアター」で初演される。現在、東京工業大学教授。

パネリスト 佐和田敬司 早稲田大学助教授。早稲田大学大学院、マッコリー大学大学院修了。批評・文化研究専攻博士課程修了(PhD)。主要業績：『オーストラリア映画史 - 映し出された社会・文化・文学』(2005)、『アボリジニ現代美術展 - 精霊たちのふるさと』(共著, 2003) など。『ストールン』『嘆きの七段階』(東京国際芸術祭)、『オナー』(文学座 / 演劇集団円) 等の翻訳で、第 10 回湯浅芳子賞受賞。

パネリスト リース・モートン (Leith Morton) 東京工業大学教授。文学博士。シドニー大学、ニューカッスル大学を経て、現職。専門分野：近現代日本文学・文化、比較文学。主要業績：*Divided Self: A Biography of Arishima Takeo* (1988), *Modern Japanese Culture: The Insider View* (2003), *Modernism in Practice: An Introduction to Postwar Japanese Poetry* (2004)。その他、翻訳詩集 *Mt Fuji: Selected Poems 1943-1986* by Kusano Shinpei (1991)、オリジナル詩集『きつね』(絵：村上征生, 1989) など多数を出版。

パネリスト 加藤めぐみ 明星大学教授。専門分野：オーストラリア地域研究。主要業績：『オセアニアを知る事典』新訂増補版、“Madame Izan: Butterflies and the Incomprehensible Japanese,” *Interactions: Essays on the Literature and Culture of the Asia-Pacific Region* (2001)、“The Scared Who Want to Scare: Fear of a Japanese Invasion in Australian Literature,” *Complicities: Connections and Divisions: Perspective on Literatures and Cultures of the Asia-Pacific Region* (2003)。

宿泊先：恐れ入りますが、宿泊は各自で確保願います。

昼食：同志社大学の寒梅館1階にはカフェ・レストラン[*Hamac de Paradis*]があり、土曜日、日曜日にも営業していますが、混雑が予想されますので、できるだけ各自で昼食をご持参ください。会場には、昼食のための休憩室をご用意いたします。

出欠：全国研究大会参加の有無にかかわらず、同封の返信用葉書に必要事項をお書き込みのうえ、5月末日までにご投函ください。

懇親会：懇親会費は6,000円程度を予定していますが、多少変動することがあるかもしれませんので、その節はご容赦ください。懇親会費は当日大会受付で申し受けます。なお、懇親会への参加は必ず同封の返信用はがきでお知らせくださるようお願いいたします。

2. 学会費の納入について

本年度の会費を、同封の振込用紙で納入されるか、全国研究大会当日、会場受付でお支払い下さい。年会費は5,000円(賛助会員は10,000円)です。昨年度までの会費を未納の方は、会計担当理事(安藤 充)に会費納入状況をご確認のうえ、前述の方法でお支払い下さい。

3. 『オーストラリア研究』第18号投稿募集および研究文献目録掲載のお知らせ

『オーストラリア研究』第18号(2006年3月発行予定)に掲載する論文を募集します。論文の締め切りは2005年8月末日。詳細は最近号掲載の「投稿要領」をご覧ください。

また第12号以降、会員の研究文献目録を継続して掲載しております。引き続き会員の協力をお願いします。発表された著書、論文、報告書、翻訳などのなかから、オーストラリア学会の趣旨に関係する目録未掲載の研究文献を選び、お知らせください。締め切りは2005年10月30日(期日厳守)。編集作業の都合上、電子メール(またはテキストファイルを含んだFD)をご利用ください。記入例は第15号(2003.3)を参照し、掲載書式に必ず準じる形でお送りください。

投稿・連絡先：オーストラリア研究編集委員会

〒610-0394 京田辺市多々羅都谷1-3 同志社大学言語文化教育研究センター 有満保江気付
: 0774-65-7070 Fax : 0774-65-7069 E-mail: yarimitu@mail.doshisha.ac.jp

宛先が変わりましたので、ご注意ください

なお、受信した旨をお知らせするメールが必ず返信されますので、ご確認ください。

〒192-8508 東京都八王子市宮下町476 杏林大学総合政策学部 橋本雄太郎研究室気付
オーストラリア学会事務局 : 0426-91-0011(代) / FAX : 0426-91-5899
E-mail: hashimotobunch@mri.biglobe.ne.jp

本年4月より事務局が移転しましたので、ご注意ください

会費振込先：00190-3-157063 加入口座名：オーストラリア学会

本会報は学会記録以外に、会員のご意見やご要望を掲載します。意見、著書、新刊、訳書、投稿など、事務局または会報担当理事までお送りください。(宛先：鈴木、HAF00025@nifty.ne.jp / 田澤、ytazawa@dohto.ac.jp)

[編集担当：田澤佳昭(道都大学)]